

2025年5月23日  
ASPINA シナノケンシ株式会社

## 九州工業大学と宇宙技術の受託研究契約を締結しました

～モーションコントロールで宇宙の裾野拡大へ～



国立大学法人  
九州工業大学

ASPINA  
Engineered to Inspire

ASPINA シナノケンシ株式会社（代表取締役社長 金子行宏）は国立大学法人 九州工業大学（学長 三谷康範）と宇宙技術の受託研究契約を締結しました。

本契約は、九州工業大学がオープンソース（※1）化に向けて開発する超小型衛星に、弊社が開発・製造・販売するリアクションホイール「ARW-3m」および実証実験のための研究費を提供するものです。

同大学は、世界の大学・学術機関における小型・超小型衛星の運用数で8年連続世界1位の実績をもち、また非宇宙先進国を支援する学際的な衛星開発プロジェクト「BIRDS Satellite Project」にも取り組んでいます。ASPINA はこうした宇宙の裾野を拡大する活動に共感し、開発技術の普及支援を目指して本契約の締結に至りました。

今後も ASPINA は精密なモーションコントロールを提案するパートナーとして、世界各国の持続可能な宇宙開発に貢献してまいります。

※1 オープンソース：ソフトウェアやハードウェアの設計図や仕様を広く一般公開すること。九州工業大学では、より多くの人びとが宇宙参加できるよう衛星開発を早く・安く・簡単に進められることを目指し、衛星のオープンソース化に取り組む

### 九州工業大学 趙 孟佑 教授（大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系）コメント

小型人工衛星は短い開発期間と低い開発コストによって、従来の中大型衛星ではできなかった宇宙利用をもたらし、これまで宇宙開発・利用には縁遠かった企業・新興国が宇宙参加を果たす上で格好の入り口ともなります。小型衛星の技術が進化することで、人類の宇宙利用が大きく変化し、より多くの人びとが、より多様な宇宙利用の成果を享受できることにつながります。

小型衛星の利点の一つである短期開発のためには、各コンポーネントのサプライチェーンを国内で作ることが望ましいと考えます。ASPINA の CubeSat（超小型衛星）用リアクションホイールは国内開発・製造であり、ぜひ使ってみてほしいと思いました。

【国立大学法人 九州工業大学について】

<https://www.kyutech.ac.jp/>

1909年の私立明治専門学校の開学に始まり、「技術に堪能なる士君子」（単に技術に精通するだけでなく道義心のある人格者）の養成を基本理念に数多くの技術者を輩出してきました。福岡県内の3キャンパス(2学部、3大学院)で約5700名の学生が学んでおり、近年では宇宙開発(教育機関における人工衛星の運用数が8年連続世界1位)や、ロボティクス(自律型ロボットの世界大会で6回優勝)など幅広い分野で成果を残しています。

(文章提供：九州工業大学 総務課広報係)

【ASPINA シナノケンシ株式会社について】

<https://jp.aspina-group.com/ja/>

1918年に信濃絹絲紡績株式会社として創業し、時代の変化に合わせ1962年より精密モータ事業に参入。現在では「ASPINA」をコーポレートブランドとし、家電・住宅設備・産業機器・車載・医療・宇宙など幅広い分野に「小・軽・静」のモータ技術で動きのソリューションを提供しています。新規事業開拓にも積極挑戦し、近年では製造現場向け自動搬送ロボット AspinaAMR の開発や医療機器受託開発製造にも取り組んでいます。

【関連情報】

(外部リンク：九州工業大学 革新的宇宙利用実証ラボラトリーサイト)

[革新的宇宙利用実証ラボラトリー | 九州工業大学](#)

(外部リンク：BIRDS プロジェクトサイト)

[BIRDS project](#)

(弊社コーポレートサイト内)

[小型人工衛星に最適な QCD のバランスを追求 - 6種のリアクションホイール | ASPINA](#)

【本件に関するお問い合わせ先】

◆広報窓口（メディアの皆様からのお問い合わせ）

ASPINA シナノケンシ株式会社 広報室 寺田 啓志 / 畑 典之

〒386-0498 長野県上田市上丸子 1078

Tel： 0268-41-1800（本社） E-mail： [pr@aspina-group.com](mailto:pr@aspina-group.com)

◆製品窓口（リアクションホイール等 宇宙関連製品のお問い合わせ）

シナノケンシ株式会社 開発技術本部 宇宙事業推進部

Tel：0268-75-5809